

## 丸亀市

担 当 課	教育委員会 総務課
住 所	丸亀市大手町二丁目 4 番 21 号
T E L ・ F A X	TEL 0877-24-8820 FAX 0877-24-8868

放課後子供教室箇所数	9 教室		
放課後児童クラブとの連携状況	一体型	連携型	該当なし
	2 教室	2 教室	5 教室
地域学校協働活動推進員又は地域コーディネーターの役職等（人数）	元教員、NPO 関係者など（9 人）		
協働活動支援員人数	71 人		
運営委員会委員数	11 人		

## どっきん☆くらぶ

教室の特徴 ここが一押し・教室の自慢	<p>田舎のおばあちゃんちのような古民家で開催している。子ども達が元気に「ただいま～」と学校から帰ってきて、家でも学校でもない和やかな居場所になっている。</p> <p>丸亀市第 1 号の子供教室として 13 年目の活動になり、地域に根差した活動になってきている。</p> <p>市内のどの校区からでも参加できるので、学校の違う子と交流したり、1 年～6 年の異年齢の交流ができたり、横のつながり縦のつながりと幅広い交遊ができています。</p> <p>様々な外部講師の方にも関わっていただき、普段できない体験もたくさん積み重ね楽しい時間を過ごしている。</p> <p>火～金曜日の日常的实施のため、子ども達が来たい曜日を選べることができ、学童との併用の児童も多くなっている。</p>
活動場所	NPO 法人さぬきっずコムシアター内施設 な～や 土器コミュニティセンターなど
活動日・時間・実施回数	火～金曜日 14:30～18:30 152 回 休日 13:00～18:00 1 回 夏休み教室 9:00～12:00 15 回
活動内容	自由あそび、簡単工作、季節工作、おはなし会、野菜ソムリエさんの野菜教室、竹パン教室、陶芸教室、野菜作り、ボードゲーム、気象予報士さんのお天気教室、フィットネス教室、わらべうた体験、ストーリーテリング、レザークラフト、日本舞踊、茶道体験、バス遠足、多世代交流イベント
教室の充実に向けて	様々な体験ができるよう幅広く地域の方に関わっていただくことや、スタッフのスキルも向上できるよう研修会参加や情報収集にも努めています。子ども達が年齢性別に関係なく、関わり合えるよう、外遊びやゲームに取り組んでいる。保護者と子供に対して説明会を行い、大切にしていることや決まり事など事前に理解してもらう機会を作っている。

スタッフミーティングを月に1回設け、子どもの様子や取組の振り返り、計画等の話し合いをし、スタッフ間での共有を図っている。

登録児童数・平均参加人数

登録児童数：41人 平均参加人数：12人

### 子どもとのかかわり方の工夫

- 子どもたちが自主的に取り組めるよう、スタッフは指導者ではなく寄り添うファシリテーターとして関わっている。
- 学年や性別に関係なく、みんなが関わり合えることを大切にしている。
- 子どもたち一人ひとりを「認める」こと、受容することを大事にしている。
- 生活力、自己管理能力、創造力、編集力を身につけられる場、個性を大切に子ども達同士の認め合いまた自己実現の場にもなるよう環境づくりやスタッフ同士のスキルアップにも努めている。
- コロナ感染対策を行いながら、子ども達との関わりに影響がでないよう気を付けている。
- 個性ある子どもも多く、コミュニケーションが難しい子どもがいるため、子どもとの関わり方に対し、常にスタッフ間で情報やあり方などの共有を密にしている。
- 保護者と子どもの様子を共有するため、お迎え時に話をする時間を取るようにしている。



フィットネス教室



野菜ハンコ

## ろくごう夢クラブ

教室の特徴 ここが一押し・教室の自慢	地域の方々の参画を得て、子どもたちが地域社会の中で、心豊かで健やかに育まれる環境づくりを推進する。
活動場所	城坤コミュニティセンター・城坤小学校体育館（スポーツ）
活動日・時間・実施回数	夏休み期間 各学年 4 教室 9:00～11:30 (スポーツは9:00～12:00) 実施回数 24 回
活動内容	小学校1年生～6年生まで、学年別にサイエンス・陶芸・クラフト・スポーツの4教室
教室の充実に向けて	内容が単調にならないように、常に興味を持ったり、通常では経験できないような内容にしている。
登録児童数・平均参加人数	登録児童数 71 名 平均参加人数 12 名

### 子どもとのかかわり方の工夫

- 学年別にするにより、同じレベルで学べ、友達にもなれ、楽しく体験できるように心がけた。
- 学校・保護者・地域の支援者・子どもとのかかわりを大切にし、子ども達の活動拠点としての居場所づくりに心がけた。
- コロナ禍での実施で、検温・消毒・マスクを徹底し、保護者の信頼を得ながら、楽しく学べ、参加しやすくなり、家族間の会話になるよう心がけた。



サイエンス教室



陶芸教室

## わんぱくクラブ

教室の特徴 ここが一押し・教室の自慢	地域の自然や環境に係わる活動計画をしている。また親子での活動参加を目指している。
活動場所	飯山北コミュニティセンター、わんぱく農園、飯野山野外活動センター、土器川水辺の楽校、子どもの国等
活動日・時間・実施回数	原則土日、休日、午前中 年間9回～13回
活動内容	わんぱく農園で野菜の植付や収穫、木枝を使ったネイチャークラフト、星空観察、河原で水遊び、草木染め、キャンプ飯作り、
教室の充実に向けて	子ども達との関わりを大切にする。色々な団体(生涯学習活動の団体を含む。)との情報交換を行い、活動計画の多様化を進める。
登録児童数・平均参加人数	約60名 親子で25名～50名

### 子どもとのかかわり方の工夫

- なるべく親子での参加をお願いしている。親子で協力して、活動を行っている。
- 活動内容を楽しく面白く、自分達自身で作るや達成をする用にしている。スタッフはなるべく見守ることにしている。また、感染対策を十分行って活動をしている。
- 活動計画を子ども達が楽しいと感じるようにと、計画を考えている。

### 飯野山野外活動センターで活動の様子



飯野山のおじよも伝説の紙芝居



小枝、葉っぱを使ったクラフト、樹木の役割や大切さの話をしています。

## おじよもんクラブ

教室の特徴 ここが一押し・教室の自慢	体験型教室（様々な力につながるプログラムの実施）
活動場所	飯野コミュニティセンター・飯野小学校
活動日・時間・実施回数	長期休暇（夏・冬・春）・土日 20日
活動内容	料理・クラフト・絵画・手芸・スポーツ・科学など
教室の充実に向けて	活動内容を地域に発信し、学校・地域からの協力を得ている。 放課後児童クラブ（青い鳥）との交流・連携を図っている。
登録児童数・平均参加人数	登録児童数 90人 平均参加人数 30人

### 子どもとのかかわり方の工夫

- あいさつ・整理整頓・準備・片付け等約束事を決めている。
- 学年に応じて準備や活動のレベルを変え、子どもたちみんなが楽しめるように配慮している。
- 参加者が40名を超えるプログラムも多いため、スタッフの配置を調整し、安全管理を徹底している。
- 子どもたちからの声を運営委員会で共有できるよう、しっかり声掛けをしている。



切り紙教室



おやつ作り教室

## みんなのみなみ みなみのみんな

<p>教室の特徴 ここがー押し・教室の自慢</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の人との交流を通して地域を愛する子どもを育てる。</li> <li>・現在、城南小学校の児童数は増加している。新しく在住することになった人たちが増えてきている。今だからこそ、地域のつながりを強くし「地域みんなで地域の子どもを育てる」という趣旨を大切にする必要があると考え、活動に取り組んでいる。教室名の「みんなのみなみ みなみのみんな」は、地域全体のキャッチフレーズでもある。</li> </ul>
<p>活動場所</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・丸亀市立城南小学校</li> </ul>
<p>活動日・時間・実施回数</p>	<p>夏休み5日間（サマースクール）8：30～11：30</p>
<p>活動内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・木工教室1日</li> <li>・ドリル教室2日</li> <li>・本大好き教室1日</li> <li>・ポスター教室1日</li> </ul> <p style="text-align: right;">} サマースクール</p>
<p>教室の充実に向けて</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年は、見合わせていた木工教室・ポスター教室を、小学校体育館を使用し実施することができた。保護者からも実施の声が大きかったので期待に応えられてよかった。</li> <li>・毎年、参加員数が増えていくのでスタッフの確保も十分に行う必要があった。スタッフとの打ち合わせをきちんと行うことでゆとりをもって子どもに対応することができた。</li> </ul>
<p>登録児童数・平均参加人数</p>	<p>サマースクール 登録人数 117人 平均参加人数 92人</p>

### 子どもとのかかわり方の工夫

- 子どもとかかわりあう大人が、子どもを大切に思う気持ちにあふれていることが感じられる。子ども一人ひとりに丁寧に接すること、また、回数を重ねて顔を合わせることで、スタッフと子どもの距離が縮まってきたように思う。
- 青い鳥教室と連携し、「本大好き教室」を実施することができた。普段から図書ボランティアとして読み聞かせに参加している保護者が本を選定し、プログラムを組んだ。子どもたちが喜ぶようにと熱心に練習をして参加していた。
- 城南小学校区地域学校協働本部の活動と連携することで、人的ネットワークを活用でき、それぞれの活動が子どもにとってもより充実したものになる。そして、地域の絆も深まり、「みんなのみなみ みなみのみんな」の意識の高まりにもつながっていている。



木工教室



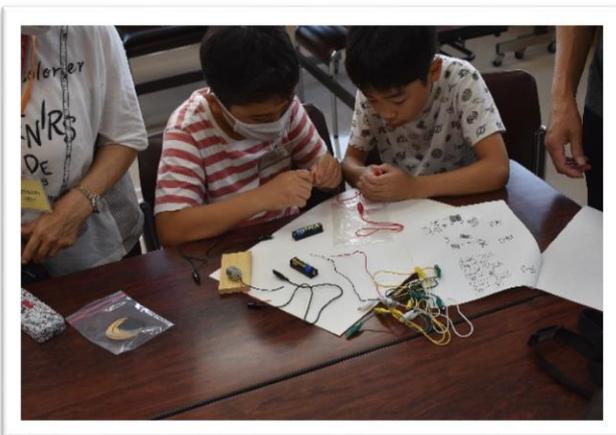
ポスター教室

## 富っ子クラブ

教室の特徴 ここが一押し・教室の自慢	科学的なものの見方を養うことで、青少年の健全育成に寄与している。
活動場所	富熊コミュニティセンター（綾歌町富熊） 坂出市万葉会館（坂出市沙弥島）
活動日・時間・実施回数	奇数月第3日曜日、8月7日・8日午前中
活動内容	科学クラブ、電気の働きやものを作る力づくり 親子が一緒になって考えることができる活動
教室の充実に向けて	科学工作から天文観測まで、専門的な知識を持つ先生方に指導をしてもらえるように計画をしている。
登録児童数・平均参加人数	登録70名、平均5名～20名

### 子どもとのかかわり方の工夫

- 自由研究に役立った。太陽光パネル自動車の作成、クリスマスツリー作り、ハンダの使用で考える力づくり。
- 海ゴミについて保護者と一緒に学ぶ。海岸の様子を見て、海ごみを拾ったり、環境問題について質問したりできた。
- 夏休みの宿題（ドリル）を子どもたちと共に行う。地域の教師経験者に指導してもらう。絵画、ポスター、工作も含んだ宿題が進んだと回答（子どもたちより）



こども科学クラブ



海ゴミ講座

## COCO 育

<p>教室の特徴 ここが一押し・教室の自慢</p>	<p>「ココ行く?」「ここで育つ」をキャッチフレーズとし、子ども一人一人が持つ潜在能力を信じて、子どもを主体とした学習や体験活動等の多様な活動を行っている。 また、英語、漢字、プログラミング、論理文等の検定認定会場として定期的に検定を実施している。日々の学習において子どもたちの学ぶ意欲を大切に、新しいことに挑戦する機会を提供している。 さらに、地域の人々との交流、日本の伝統文化の継承を考えたイベントの実施で、地域全体での子育てができる環境づくりを目指している。</p>
<p>活動場所</p>	<p>b&amp;g まるがめ施設内（丸亀市立城辰小学校北側）</p>
<p>活動日・時間・実施回数</p>	<p>毎週月曜日～金曜日、15:00～17:30、月に平均 20 日</p>
<p>活動内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習（宿題や自主勉強、検定にむけての学習）</li> <li>・体験活動（季節に応じたイベント、ハンドメイド、プログラミング、オンライン学習等）</li> <li>・地域交流（青い鳥教室との合同遠足、コミュニティーセンターでの季節のイベント、日本赤十字社による救命救急講習等）</li> <li>・高校生・大学生ボランティアとの屋内・野外体験</li> </ul>
<p>教室の充実に向けて</p>	<p>室内遊び以外にも屋外、オンラインなど多種多様な活動を実施</p>
<p>登録児童数・平均参加人数</p>	<p>登録 16 人、平均 6 人</p>

### 子どもとのかかわり方の工夫

- こども会議を中心とした意見交換の場を設け、常に子どもが主体となって活動を行う。
- お金の学習の一環として、教室内で使える通貨（キッズハート）の活用。  
→将来、働くために必要な表現力・計画性、お金の価値を育む為の豊富な仕掛けとしてお手伝いを仕事に見立て、応募・面接を行い、一か月の給料制とする等。  
→使い方は自由！教室内にあるミニ売店で文房具やおかしを買っても OK！貯めても OK！  
→キッズハートは自己管理を徹底し、日頃から自分の荷物管理ができるように促す。
- 職員の子どもとのかかわり方についてのスキルアップの強化。  
→ボランティアさんも含めた、定期的なミーティングの場を用いて共通した接し方ができるよう、心がける。



【青い鳥教室合同企画】

日本赤十字社香川県支部  
救命救急講習の様子



【オンライン調理実習】

季節に応じた食材を調理！

### 本事業における成果・今後の課題

- 成果
- ・丸亀市では、島しょ部を除く全 15 校区のうち、9 校区に教室を設置している。今年度についても新型コロナウイルスの影響がある中で、参加児童が楽しめるよう教室ごと工夫して活動することができた。
  - ・放課後留守家庭児童会（青い鳥教室）との連携事業については、今年度は新たな校区で実施することができ、学校との連携も行うことができた。
- 課題
- ・今後も本事業の趣旨をより多くの地域の方々にご理解いただくとともに引き続き新たな人材発掘に取り組む。
  - ・地域の実施主体である人材の高齢化や配慮が必要な児童の増加等により、活動が難しく閉室になった教室もあったため、教室へのサポートが必要になる。